

見創見 Thursday

先日、高校3年の男子が、
明治大学の合格通知書を持って登壇した。合格と卒業を祝ふると、「志学塾には小学2年で入塾しました。初日に塾長に聞かれたことを今でも一生懸命に勉強しました」

「何かし、中学に進んでからは、勉強の楽しさも消え、目標もないのに塾に通っている状態でした。それを見かねた塾長が、私に本当に厳しく接してきて…。どうして自分だけにこんな厳しいのだろう」と思いました」

介護保険料15%が100円超

65歳以上の介護保険料は、市区町村や広域連合ごとに決まり、3年に1度見直し

4月からの保険料が最も

旧優生保護法下の強制不妊手術
青中斗三以トニシキ力

「この志学塾で多くを学び

自己肯定感



畑山 篤

志学塾塾長

はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

自分を信じて夢に向かえ!

ましたが、中学3年の最後に夢について知ることができ、本当に良かったと思えます」と話してくれた。

3月8日、県立高校入試の日を迎えた。受験生は「ゆとり教育世代」になり、年々様変わりしてきた。個性重視の教育で育ってきたからか、自分勝手な正しさの基準を持っている面も感じる。

例えば、やってもいないのに「やればできる」と断言したり、自分なりの「頑張った」を主張したりする子が少なくない。また、今年は特に頑張りがきかないのか、インフルエンザではないのに熱が出て欠席する子が続いた。そして、毎年のように、男子が涙を浮かべて泣くことに驚かされる。ある時は野球部だったり、ある時は陸上部だったり。

私に「学区で通った小中学校は、自分ではじめて選ぶ運命の学舎だ。そこにはいまだ見ぬ尊敬できる師と生涯の友が待っている。しかし、志望校に合格することが夢ではない。合格は夢の実現に近づいたための目標だ。夢とは実現不可能なものをいうのだが、さて、何だろう」と考えさせられた。

先月も中学3年の男子が母親の車の後部座席で泣きじゃくり、教室に入れないことがあった。母親から状況を聞けば、帰りたいわけでもなく、行きたくないわけでもなく、目の前の正念場に立ち往生し、嵐が過ぎるのを祈っていた。

私は「学区で通った小中学校は、自分ではじめて選ぶ運命の学舎だ。そこにはいまだ見ぬ尊敬できる師と生涯の友が待っている。しかし、志望校に合格することが夢ではない。合格は夢の実現に近づいたための目標だ。夢とは実現不可能なものをいうのだが、さて、何だろう」と考えさせられた。

「親は子に、自分を信じて夢に向かえる術を身につけさせたい。春はもうすぐだ。」

幼い頃から自分でできるという経験を積むことが自信の本質だ。だから、過去の成功体験に乏しい子は、自己肯定感が高まらず、選抜試験のような正念場を前に、これだといんだという自信が持てず悩んでしまう。

県立高校入試の1週間前、今年も直前講習会の最終講義を行った。私は黒板に「宿命、運命、夢」と大きく書いた。凛とした空気が流れた。私は「学区で通った小中学校は、自分ではじめて選ぶ運命の学舎だ。そこにはいまだ見ぬ尊敬できる師と生涯の友が待っている。しかし、志望校に合格することが夢ではない。合格は夢の実現に近づいたための目標だ。夢とは実現不可能なものをいうのだが、さて、何だろう」と考えさせられた。

「世界平和」「福島の放射能」「不老不死」などを挙げた。私は黒板に「人事を尽くし天命に聽す」と大きく書き、「睡魔と闘う友を想い、ラスト1週間を豊かないで頑張ることを人事を尽くすというなら、天命とはその結果の出会いである」と教えた。そして、「夢とはかなわないものをいう。だから夢を諦めないでほしい」と結んだ。自己との闘いは常に孤独だが、他者と比較しながらの孤独が子とをたくましく成長させる。いまだ見ぬ友に比べ、できたところではなげ、できないところを自分で認めることが、信念につながる自信となる。

半く60年代前半は件数が多かったとされる。一方、道が69年から「不